

# Kirchhoff 型方程式に対する特異摂動問題\*

生駒 典久 (東北大学)

本講演では, 以下の Kirchhoff 型方程式に対する特異摂動問題を考察する:

$$(E) \quad -\varepsilon^2 m(\varepsilon^{2-N} \|\nabla u\|_{L^2}^2) \Delta u + V(x)u = f(u) \quad \text{in } \mathbf{R}^N, \quad u \in H^1(\mathbf{R}^N), \quad u > 0 \quad \text{in } \mathbf{R}^N.$$

ただし  $N \geq 1$ ,  $m \in C([0, \infty), \mathbf{R})$ ,  $V \in C(\mathbf{R}^N, \mathbf{R})$ ,  $f \in C(\mathbf{R}, \mathbf{R})$  は与えられた関数,  $\|\nabla u\|_{L^2}^2 := \int_{\mathbf{R}^N} |\nabla u|^2 dx$  とし,  $0 < \varepsilon \ll 1$  はパラメータとする. 方程式 (E) の特徴として, 項  $m(\varepsilon^{2-N} \|\nabla u\|_{L^2}^2)$  による非局所効果が挙げられる. また, 関数  $m(s)$  が正定数と恒等的に等しい場合 ( $m(s) \equiv \text{const.} > 0$ ), 方程式 (E) は非線形 Schrödinger 方程式に対する特異摂動問題となることに注意する. この意味で方程式 (E) は非線形 Schrödinger 方程式を含むようなものである.

先行研究 [4–6] では,  $N = 3$ ,  $m(s) = a + bs$  ( $a, b > 0$ ) かつ  $f(s)$  に対して  $s \mapsto s^{-3}f(s)$  の単調増加性等を仮定し, 関数  $V(x)$  の最小点や極小点に凝集する (E) の解の存在が示されている.

本講演の目的は非線形項  $f$  として [1] において扱われているような非常に一般的なものに対して (E) の凝集解が存在するかを考察することである. 特に, 関数  $V(x)$  の極小点に凝集する解に興味がある. さらに, 関数  $m(s)$  が 1 次関数以外の場合も扱い, 次元についても 3 次元に限定せず, 一般の次元において考察する.

本講演で扱うことができる  $m(s)$  や  $f(s)$  の例としては次が挙げられる:  $f(s) = |s|^{p-1}s$  ( $1 < p < (N+2)/(N-2)_+$ ),

$$m(s) = a_0 + \sum_{i=1}^k a_i s^{q_i}, \quad 0 < a_0, \quad 0 \leq a_i \quad (1 \leq i \leq k), \quad 0 < q_1 < q_2 < \cdots < q_k < \frac{2}{(N-2)_+}.$$

特に  $1 \leq N \leq 3$  とすると  $f(s) = |s|^{p-1}s$ ,  $1 < p < 3$ ,  $m(s) = a + bs$  の場合が含まれる.

証明は, [2, 3] の議論に沿って行う. そのために, 定数係数 Kirchhoff 型方程式の最小エネルギー解を峠の定理により特徴付ける. その際にどのような条件を  $m(s)$  に課せば良いかを考察する.

## 参考文献

- [1] H. Berestycki and P.-L. Lions, *Arch. Rational Mech. Anal.* **82** (1983), 313–345 and 347–375.
- [2] J. Byeon and L. Jeanjean, *Arch. Ration. Mech. Anal.* **185** (2007) 185–200 and **190** (2008), 549–551.
- [3] J. Byeon, L. Jeanjean and K. Tanaka, *Comm. Partial Differential Equations* **33** (2008), 1113–1136.
- [4] Y. He, G. Li and S. Peng, *Adv. Nonlinear Stud.* **14** (2014), 483–510.
- [5] X. He and W. Zou, *J. Differential Equations* **252** (2012), 1813–1834.
- [6] J. Wang, L. Tian, J. Xu and F. Zhang, *J. Differential Equations* **253** (2012), 2314–2351.

---

\* Universidade Federal do Pará 所属の G. M. Figueiredo 氏と J. R. Santos Júnior 氏との共同研究に基づく.